地域調査を通した地域資源の発掘

Discovery of local resources through regional surveys

齋藤　竜太 *
Ryuta Saitoh

摘　要

地理学を志すきっかけと，東京都立大学地理学科で学んだことを振り返るとともに，高等学校地理教科書の編集という仕事のなかで実際に行った地域調査の事例と，その際に製作した主題図を紹介する。具体的には，2000 年度の卒業論文における地域調査の事例，および，2009 年（平成 21 年）に告示された高等学校の学習指導要領のもとで発行した，2 冊の地理 A 教科書に掲載した 4 つの地域調査事例をもとに，地域調査における地図制作の手法と，地域資源の発掘方法の変遷について考察している。これらの事例をもとに，地理教育における地域調査により，地域資源を発掘する経験がもたらす教育的な効果について，GIS などの技術的な進歩も踏まえて展望を記した。

Ⅰ．はじめに

「現在，東京に蓄えられた世界最新のテクノロジーと，かつてから東京にある隅田川の存在が合体し，新しい東京を形成するのが自然な成り行きに思えて仕方ない。」

「東京東進化計画の重要なファクターが“水”との調和（あるいは“水”の復権なのだと感じている）。」

筆者は，高校生の頃に，TM NETWORK の小室哲哉氏が東京を俯瞰的に捉えたエッセイ集『告白は踊る』を読み，そこに書かれていた東京論に影響を受けた。1993 年，バブルの残り香があった頃，東京湾にレインボーブリッジがかかり，千葉の幕張に新都心が建設され，ジュリアナ東京が流行し，湾岸地区に注目が集まった頃のことである。小室氏は，東京をレインボーブリッジから俯瞰的に眺め，西へと市街地を拡大させてきた東京が，東へとエリアを拡大させるきっかけになるのではないかと指摘していた。理系の附属高校に通っていた筆者は，常に変化を続けていく東京という存在自体に，巨大なシステムとしての魅力を感じた。そして，「東京のことを学びたい」という漠然とした動機で，東京都立大学理学部地理学科の門を叩いた。

「ノートに『東京の地図』を書いてください。」

「東京ってどの範囲を書けばいいのですか？」

「それを考えるのが，地理の勉強です。」

確か大学２年生の頃，人文地理学の基礎的な授業の際に，初めて菊地俊夫先生と交わした会話を，今でもよく覚えている。確かに，今思うと，あれだけ小室氏のエッセイを読んでいたのに，改めて「東京とは？」と聞くのは野暮であったと思うが，菊地先生の唐突な問いのおかげで，東京を幅広くとらえることができるようになり，興味・関心の幅を広げることができた。その時に書いた地図は提出したので手元にはないが，おそらくは，山手線を中心に 23 区内を描いたものであっただろう。

しかし，ビルが建ち並ぶ華やかな都心部も東京であるし，筆者が生まれ育った，畑と雑木林が原風景である多摩地区も東京である。都立大学が思いのほか郊外にあったこともあり，僕の関心も，大学に通う電車の車窓から見える，生まれ育った多摩の景色へと自然に移っていった。卒論の前年に山口県防府市で行った「大巡検」とよばれる１週間がかりの地域調査で，防府市の活発な直売農業に魅力を感じたこともあり，卒論は多摩地域で直売農業について調査したいと考えるようになった。そして，菊地先生からマンツーマンで指導を受ける日々が始まるのであった。

*二宮書店教科書編集部
〒101-0047 東京都千代田区内神田１丁目１２−６
大森内神田ビル 2F
e-mail　r-site@ninomiyashoten.co.jp

Ⅱ．卒業論文での地域調査

図１　東京都小平市の農産物直売所分布（2000 年）

2000 年度には卒業論文で，東京都小平市を事例に「都市農業における農産物直売の存立構造とその役割」というテーマで調査を行い，菊地先生に指導教官になっていただいた。

まず，事例地域の選定にあたっては，筆者が住む北多摩５市を予備調査して資料を集めた。そして，菊地先生の運転する車の助手席に乗り，実際に見て回った上で，小平市を事例地域とすることに決めた。

本調査では，小平市内のほぼ全ての道路を踏破して農産物直売所の分布図を作成し，市内には 190 箇所の農産物直売所があることを確認できた（図１）。これによると，直売所の立地は，基本的には街道沿いの母屋の敷地内に設けられた直売所（沿道型直売所）と，それ以外の場所に作られた直売所に分けて考えることができる（非沿道型直売所）．そして，東京都農業試験場から，また，直売所を形態別に見ると，共同直売型が 2 箇所，店舗併設型が 8 箇所，ログハウスのような常設小屋型が 45 箇所，スタンド型が 134 箇所であった。

また，逃去と農業試験場の協力を経て，個別の農家の経営状況に関する資料を入手し，表１のように収入割合別に農家の出荷形態をまとめることも行った。

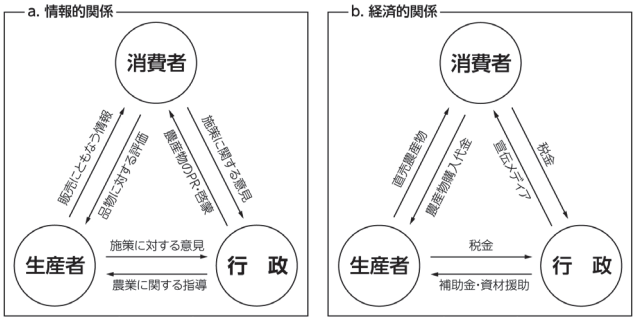


図２　農産物直売をめぐる生産者・消費者・行政の関係

こうした，自分の足で稼いだ生のデータとともに，多くの農家の方から聞き取り調査を行い，最終的には農産物直売をめぐる生産者と消費者，行政との関係を図２のようにまとめることができた。今思えば，図２のような関係構造図を作ることが，菊地先生の考える「持続可能な地域」の枠組みそのものを学ぶことであり，就職してからの教科書作りにも，大いに役に立つのであった。

表１　小平市内の農家における農業収入別にみた出荷形態

農業収入割合	市場出荷	庭先売り	宅配便の利用	農協等即売会	もぎ取り・摘み取り	量販店	生協	学校給食	加工業者	流通業者	都の依託	その他	小平市農家全体
100%	4.9%	2.8%	4.4%	18.2%	3.7%	11.1%	0%	0%	0%	3.2%	0%	3.6%	2.7%
90~99%	3.1%	1.8%	4.4%	9.1%	0%	11.1%	0%	0%	0%	1.6%	0%	0%	1.9%
80~89%	1.8%	1.4%	0%	0%	0%	0%	10.0%	0%	0%	3.2%	0%	1.2%	1.3%
70~79%	1.8%	1.8%	2.2%	0%	3.7%	0%	0%	0%	6.7%	3.2%	0%	4.8%	1.1%
60~69%	5.3%	3.9%	4.4%	9.1%	3.7%	0%	10.0%	0%	0%	1.6%	14.3%	4.8%	2.9%
50~59%	4.9%	2.5%	4.4%	0%	3.7%	0%	0%	0%	0%	3.2%	0%	4.8%	3.1%
40~49%	10.6%	2.5%	22.2%	18.2%	37.0%	0%	30.0%	0%	20.0%	12.7%	0%	8.3%	7.1%
30~39%	19.0%	15.1%	15.6%	9.1%	18.5%	22.2%	10.0%	50.0%	13.3%	15.9%	28.6%	15.5%	11.7%
20~29%	14.2%	18.6%	20.0%	27.3%	18.5%	33.3%	20.0%	50.0%	20.0%	12.7%	28.6%	15.5%	12.5%
10~19%	18.1%	18.9%	11.1%	9.1%	7.4%	11.1%	0%	0%	13.3%	19.0%	14.3%	28.6%	17.8%
0~9%	16.4%	30.9%	11.1%	0%	3.7%	11.1%	20.0%	0%	26.7%	23.8%	14.3%	13.1%	37.9%
農家戸数	226	285	45	11	27	9	10	2	15	63	7	84	522

（東京都農業試験場資料より作成）

Ⅲ. 地域資源を発掘する地域調査

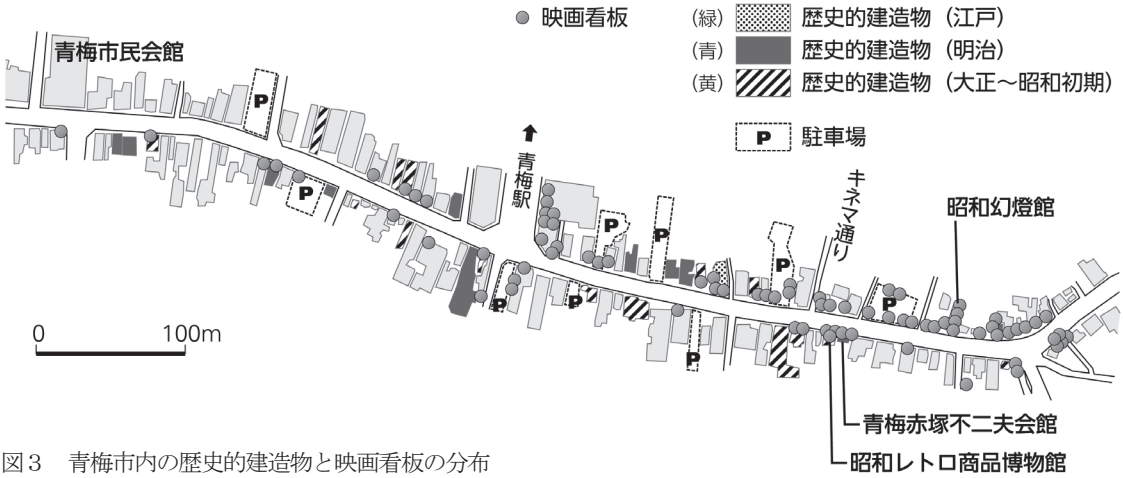


図３　青梅市内の歴史的建造物と映画看板の分布

二宮書店への入社後は，主に地理Ａの教科書の編集を担当してきた。地理Ａ教科書のなかで，観光については，冒頭の主題図学習などの章と，地域調査の章で各社とも，おもに取り上げている。本項では，筆者が編集を担当した教科書に掲載した地域調査の事例をもとに，教科書のなかで，観光と関わりの深い地域資源をどのように取り上げてきたかを紹介したい。

2009 年（平成 21 年）に告示された高等学校の学習指導要領では，地理Ａの内容が，世界の諸地域を扱う（１）「現代世界の特色と諸課題の地理的考察」と，生活圏スケールでの課題を扱う（２）「生活圏の諸課題の地理的考察」の二本柱となり，世界規模で学習した地理的な知識や技能を，身近な地域の課題に取り組む際に活用する構成になっていた。

この学習指導要領に基づき初めて作られた地理Ａの教科書『新編地理Ａ（地Ａ304，2012 年［平成 24 年］）』では，生活圏の諸課題を，大きく「過疎化・空洞化」に伴う問題と，「過密化･集中化」に伴う問題に分けた。さらに，「過疎化・空洞化」では，Ａ商店街の空洞化，Ｂ高齢化，Ｃ農地の耕作放棄，Ｄ森林の荒廃を，「過密化・集中化」では，Ｅ「渋滞する道路」，Ｆ「無秩序な都市化」，Ｇ「自転車の放置」，Ｈ「保育園の不足」を，課題例としてそれぞれ写真で示した。生活圏の諸課題をこのように分けてとらえることは，以降の教科書でも踏襲されている。

そして本文では，「これらの課題の背景を知り，解決方法を考えるには，地域調査を行うことが有力な手段である。」と記述した。これに基づき，地域調査の事例地域として，大型スーパーなどとの競合により商店街の振興が課題となっていた，東京都青梅市の商店街を取り上げた。

図４　青梅宿アートフェスティバル
（2010 年，筆者撮影）

東京都青梅市では，1991 年より毎年「青梅宿アートフェスティバル」（図４）が開催されている。1993 年の第３回では，「街ゆかば大正がかほる」がテーマとなり，その時に映画看板が商店街の店舗に取り付けられた。その後，第 10 回「シネマは踊る青梅宿」などを通してマスメディアにも取り上げられるようになり，昭和レトロブームとともに，「古い映画看板のある昭和レトロな街」として広く知られるようになっていた。

2008 年に行われた首都大学東京大学院観光科学専修の大学院生による「観光まちづくり調査」を通して，地元の商店街による「ぶらり青梅宿」との協働関係が生まれ，2009 年は「青梅観光まちづくり塾」も開講された。教科書『新編地理Ａ』に菊地俊夫先生が執筆した地域調査の文章は，このときの取り組みをベースとしたものであった。図３の現地調査地図は，「観光まちづくり調査」の成果をもとに，筆者が 2010 年にアートフェスティバルに合わせて現地調査を補足的に行い，教科書に掲載したものである。

図５は，地域調査の成果を高校生がポスターにまとめた例として，教科書に掲載したものである。イベントの実施により新たな地域資源が発掘され，それが活用されることにより，新たな地域のイメージが形成されるというサイクルで，「映画看板の街」から「昭和レトロの街」へと発展した。地域資源の発掘・活用を循環させ，新しい地域イメージを創出する仕組みは，「この街には何もないよ」と言いがちな，地域資源（観光資源）を見つけきれずにいる地域にも，大きなヒントになると感じた。

身近な地域の課題

⇒地方都市の中心商店街が衰退している問題
- ・都心の商業施設を利用する人が増えた
- ・地元の商店街を利用する人が減った
- ・シャッター通りがあらわれた

⇒大都市の近郊にある青梅市も例外ではない

青梅の商店街で目立つ
シャッターが下ろされた店

青梅商店街の歴史と現状

⇒青梅街道の宿場町（青梅宿）として発達
⇒青梅の林業の中核地
⇒繭（まゆ）や絹織物の集散地として発達

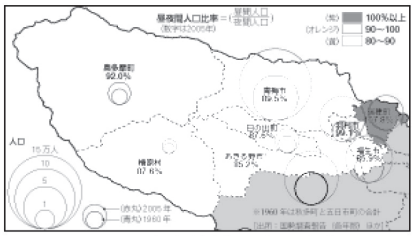


図　西多摩地域の人口分布

➡ 青梅市の人口は増加しているが，
青梅市民は地元以外で買い物している…

地元商店街の振興が重要な課題!!

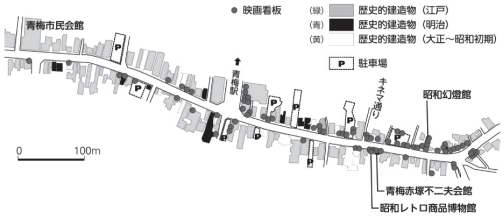
青梅宿アートフェスティバル

⇒商店街の経済的な活性化が目的
⇒1991年から市民参加のイベントとして実施
⇒青梅宿アートフェスティバル実行委員会が運営
⇒商店街による地域資源さがし

青梅宿アートフェスティバル（左）と
地域資源としての映画看板（右）

地域資源としての映画看板

⇒青梅宿アートフェスティバルで映画看板が
地域資源として見直される（看板職人の存在）
⇒マスコミによる「映画看板のある街」という
報道→地域イメージの形成
⇒地域イメージの利用→まちづくり

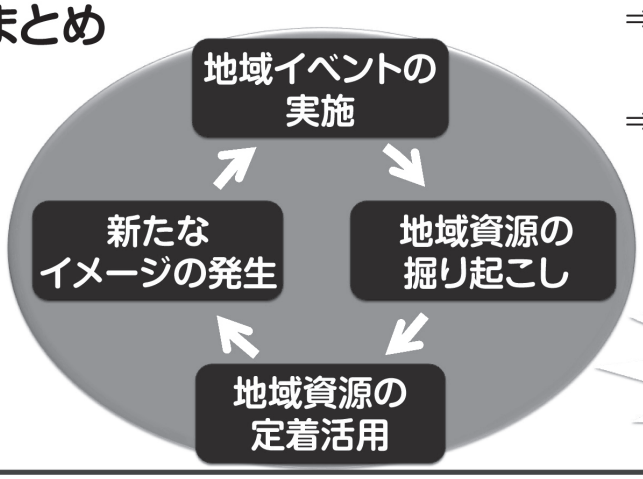


［出所：2,500分の1青梅市都市計画図「東青梅」「宮ノ平」をもとに2008年現地調査より作成］

図　青梅商店街の歴史的建造物と映画看板の分布

「昭和レトロ」なまちづくりの実行

まとめ



⇒「イベントの実施・地域資源の掘り起こし・
地域資源の活用・新しい地域イメージの発生」
というサイクルによるまちづくり
⇒商店街のイベント→地元の社会組織や住民，
中学生，高校生，大学生なども積極的に参加

**商店街振興
地域活性化**

図５　地域調査の結果をまとめたポスター

Ⅳ. 高校生が作成した街歩き地図

図６　「駅からハイキング in 沼田マップ」（2010 年）

さらに,『新編地理 A』では，教科書のまとめとして，地域調査の成果を広く社会に発信していく取り組みを行っている，群馬県立沼田女子高等学校の生徒が作成した地図を紹介した（図６）。これは，2011 年（平成 23 年）に，群馬県内の各市町村と JR 各社，観光関連の事業者が連携した「群馬デスティネーションキャンペーン（DC）」の一環として作られたものである。

DC の前年である 2010 年（平成 22 年）には，観光資源の掘り起こしや磨き上げを目的として,「群馬プレデスティネーションキャンペーン（プレ DC）」が行われた。プレ DC の一環として，群馬県沼田市では，地元の群馬県立沼田女子高等学校の生徒が作成したガイドマップをもとに，高校生の案内により沼田市内の街歩きを行うイベントが，JR 東日本による「駅からハイキング」の一環として 2010 年 9 月 23 日に開催された。図５のガイドマップは，その当日に配布されたガイドマップであるが，新聞部の生徒が作成したもので，商業印刷にも耐えうるクオリティを持っていた。

街歩きイベントには，菊地俊夫先生，沼田女子高等学校の地理の先生（菊地先生の群馬大学時代の教え子），

図７　沼田公園内を案内する高校生（2010 年，筆者撮影）

筆者の 3 人で参加した。当日は，生憎の雨となったため，沼田公園周辺など限られた場所になったが，地元のボランティアガイドの指導を受けながら，高校生が案内する形で案内が行われた（図７）。

中学生や高校生による地図作りの取り組みは全国的なひろがりをみせており，質の高い地図が作られるようになっている。今後は，新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ，生徒による地域調査や地図作りの成果が，地域社会や街づくりに還元されていく仕組みが，観光振興の面でもより重要になっていくと考えられる。

Ⅴ. GIS を活用してアニメ聖地の地図を作る

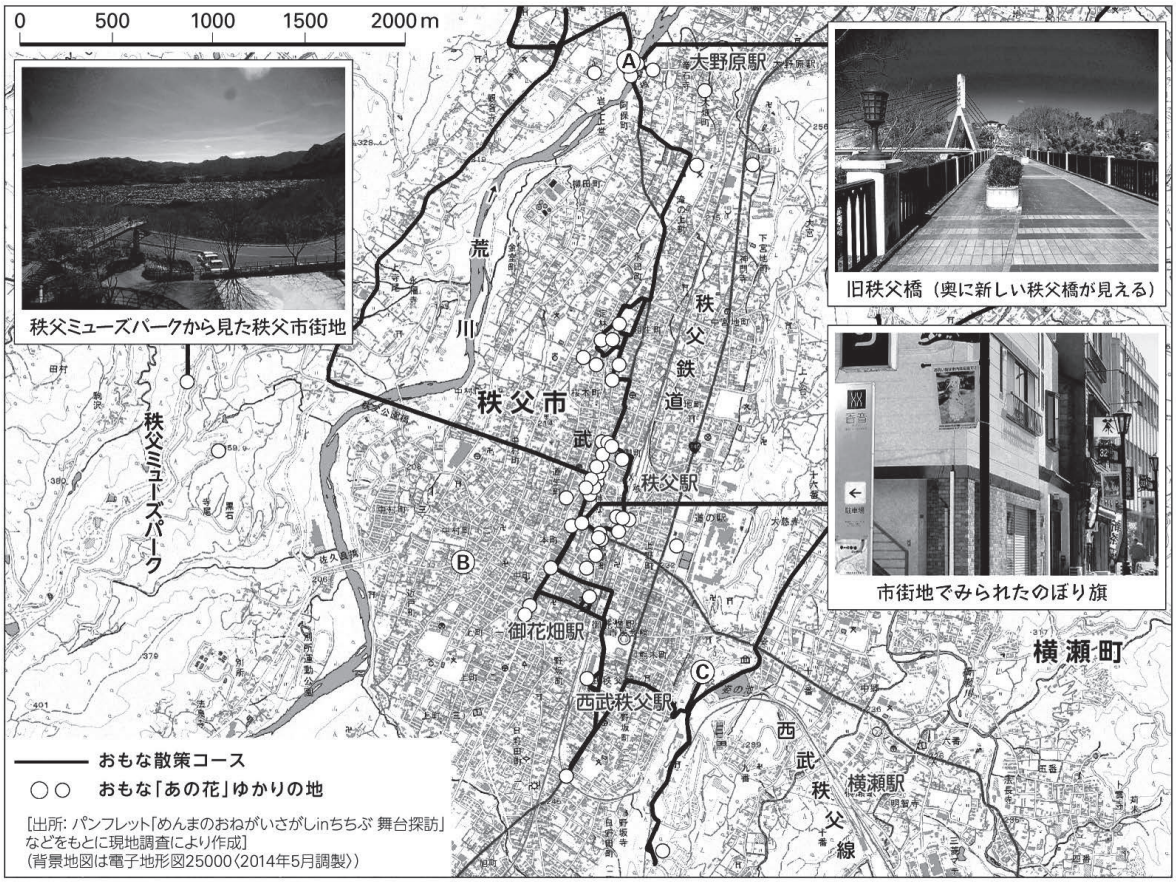


図８　GIS で表示した「あの花マップ」（2014 年）

『新編地理 A』を発行した当時は，GIS（地理情報システム）は，まだ学校現場にとって使いやすいものではなかった。地図編集作業の一部にも GIS による作図を取り入れてはいたが，プロクオリティの地図を作成するには，一手間も二手間もかかる時代であった。

そうした状況を大きく変革させたのが，2013 年（平成 25 年）にサービスを開始した国土地理院による「地理院地図」と，フリーの GIS ソフトである QGIS のヴァージョンアップによる進化であった。

2009 年（平成 21 年）改訂の高等学校学習指導要領に基づき発行した２冊目の教科書である『基本地理 A（地 A309，2016 年［平成 28 年］）』では，地形図図式が大きく変更になり，電子地形図や地理院地図に対応した。地形図が，紙で見るものからパソコンやスマホなどで見るものに軸が移ったのである。同時に，GIS を用いて地形図上に様々な地理空間情報を重ね合わせて表示することが容易となった。同じ学習指導要領が継続する期間ではあったが，地理教育そのものに大きな変革が訪れたので，単なる教科書の改訂ではなく，新しい時代の発想を積極的に取り入れた。

ちょうど同じ時期，スマートフォンが大きく普及した。スマートフォンには GPS（GNSS）が搭載され，撮影した写真には位置情報が付与されるようになった。図８は，スマートフォンを活用して，位置情報付きの写真を撮影した場所を地図上にプロットすることにより作成した，いわゆる「アニメ聖地マップ」である。埼玉県秩父市を舞台としたアニメ「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」（以下，「あの花」と略す）に出てくる場面と対応した地点を，点データとして電子地形図上にプロットしたものである。「あの花」の背景として描かれる景観は，実在の風景をもとに描かれたものであり，埼玉県秩父市の自然的・文化的景観を写実的に示している。秩父市を訪れると，アニメに出てくる場面と同じ景観を見ることができるので，アニメ中の，あるシーンの舞台となった地点を「聖地」と名付け，アニメの舞台にある「聖地」をめぐる観光行動が，アニメツーリズムとして人気を集めるようになった。「あの花」の場合は，武甲山や秩父盆地など，背景として描かれる自然的景観そのものも，地理教育の題材としての使用に耐えうる要素を持っている。

Ⅵ. スマホ写真をもとに散策コースの地図を作る

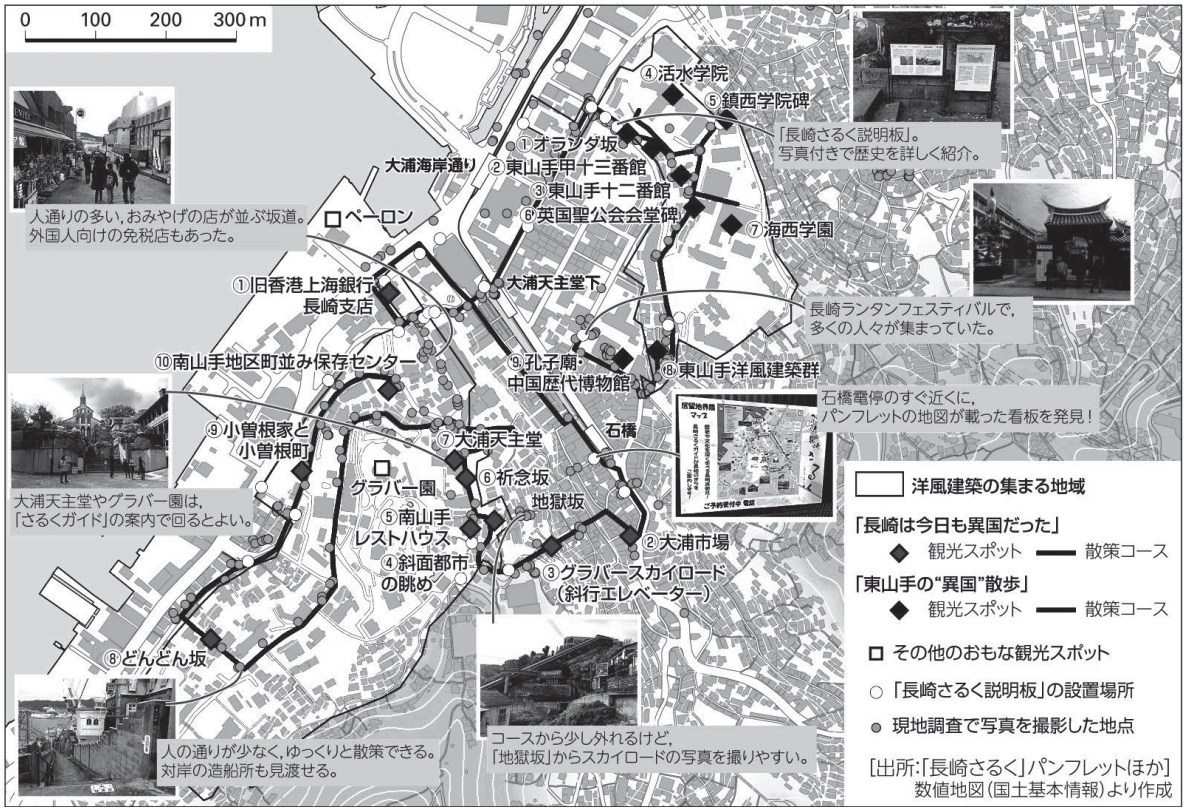


図９「長崎さるく」地図（2014 年）

『基本地理 A』では，地域調査の事例地域として，長崎県長崎市を選択した。『新編地理 A』で取り上げた身近な地域の課題を調査する事例として東京都青梅市を取り上げたが，長崎市を取り上げたのは，修学旅行で訪れる地域の事前学習として，地理 A の地域調査を活用するというアイディアからであった。被爆地でもある長崎市は，広島市，那覇市とともに，平和学習を兼ねた修学旅行の行き先として選ばれることが多い。さらに，長崎市には「長崎さるく」という名前で，坂道や細い路地が多い街中を散策するコースが設けられている。1 km〜3 km の徒歩コースがエリアごとに細かく設定されており，地域調査や修学旅行で実際に歩いてめぐる場合にも都合が良く，教科書でも無理のない良いスケールで取り上げられることが，事例地域として教科書で取り上げる大きな理由になった。

図９の地図をつくるにあたっては，事例地域の数値地図（国土基本情報）をもとにベースマップを作り，「長崎さるく」のパンフレットから２つのコースを選び，Google Earth 上にその行程をプロットして KML ファイルを作成し，ベースマップに重ねた。この地図を印刷して，実際に長崎市を訪れ，観光客と同じように写真を撮りながらコースを巡ってみた。

写真を撮りながら２つのコースを歩き，東京に戻ってから，写真に付与された位置情報をもとに，写真を撮った場所を地図上にプロットした。その結果，写真を撮影した場所は，「長崎さるく」のコース上にある主要な施設そのものとは限らないことに気づいた。つまり，大浦天主堂や，グラバースカイロードなどを撮ろうとした場合，その施設に近すぎると全景は収まらない。グラバースカイロードの全景が撮れる場所は地獄坂のあたりであるし，香港上海銀行長崎支店の写真を取るためには，道路の反対側に渡る必要がある。また，グラバー園からどんどん坂へと至る道からは，対岸の造船所の全景写真を撮ることができる。さらに，観光ガイドに載っていないような小さな観光資源を発掘して地図上に記録することもできた。

スマートフォンが示す位置情報の精度には機械の性能や電波の状況により限界があるので，紙地図やスマホアプリを併用しながら，撮影地点の情報を，ある程度正確なものに補正する必要はある。その手間があるとしても，撮影した一定の範囲の写真を集め，撮影した場所と，被写体の属性の関連性を調べることで，観光ガイドや観光コースでは想定していなかった新たな地域資源を発掘できる可能性を感じた。

Ⅶ. おわりに

以上のように，2009 年（平成 21 年）改訂の高等学校学習指導要領のもとで作られた教科書の，おもに地域調査で取り上げた事例に着目し，掲載した４つの主題図を順番にたどってきた。どの主題図も，観光を通した地域振興に関わりが深いものであるが，地図作りの手法は，地理院地図の整備や GIS ソフトの高機能化に応じて変化してきた。

『新編地理 A』で取り上げた２つの地域振興の事例は，イベントの積み重ねをもとに，経験から地域資源を創出していく取り組みであった。教科書は全国の高等学校で使われているが，全ての地域が，必ずしも観光客を集めるような地域資源を見つけられているわけではない。観光庁は，「地域資源を活用した観光地魅力創造事業」を 2015 年度（平成 27 年度）から３年間実施していたが，高校と地域が一体となって地域資源を発掘していく取り組みは，地域の活性化のためにも意義のあるものだと考えられる。商業科，工業科，農業科，水産科などの実業校において，地理と職業に関する各教科とが連携することによる地域資源の発掘にも期待したい。

一方，『基本地理 A』で取り上げた，スマホ写真の撮影場所を GIS で地図上にプロットする手法は，GIS の基礎的な手法を身につけるためにも役に立つ。また，これまで知られていなかった地域資源を手早く発見することができるメリットがある。イベントを通した地域資源の発掘と定着には長い時間を要するが，GIS を活用して地域資源の自然発生的な盛り上がりをいち早く捕捉することで，よりスピーディーに，効果的な振興策を考えることができる。観光庁は，「GPS を利用した観光行動の調査分析」や「観光ビッグデータを活用した観光振興」を 2013 年度（平成 25 年度）から３年間実施した。また，NTT ドコモでは，基地局情報を活用した人口統計情報「モバイル空間統計」を用いて，観光客の観光行動分析するサービスを提供しており，これに基づいて行政が観光戦略を立てる取り組みも行われている。

2018 年（平成 30 年）に改訂された新しい学習指導要領では，「地理 A」は「地理総合」となり，全ての高校生が学習することになるが，「地域資源の発掘」と，「人々の行動の分析」は，観光に限らず，高等学校地理における地域調査の大きな柱になっていくことが期待される。2020 年，新型コロナ禍のもとで，人々の行動が大きく制約された。Go To キャンペーンなどにより観光振興が図られてきたが，「新しい日常」の元での観光行動は，これまでの日常とは大きく異なるものになっている。しかし，そうした行動の変化を素早く捉え，変化をチャンスととらえていくためには，高等学校地理での地域調査や GIS の学習を通して得られる経験が，ますます重要になっていくだろう。

最後に筆者についての話に戻るが，地理学習を通して，生まれ育った地域に関心を持ち，現地調査により自分の足で情報を集めて地域の構造を明らかにした経験は，地理教科書の編集者としての現在の仕事にも大いに役立っている。インターネットの発達により容易に手に入るようになった情報も多いが，実際に足を運ぶことでしか得られない「生の声」に触れる意義を，少しでも多くの高校生に伝えられたらという思いで，特に地域調査のページを編集する際には，自分自身が楽しみながら，現地を取材することを重視している。

謝辞

卒業論文や，教科書の「地域調査」のページを作るにあたっては，聞き取り調査や，資料の入手などで多くの方のお世話になりました。また，菊地俊夫先生には，自由な発想を受け入れていただくとともに，色々な場面で豊かなアイディアをご提供いただき，地理を生涯の生業とするきっかけを作っていただきました。改めて御礼申し上げます。

参考文献

小室哲哉 1993.『告白は踊る』角川書店.

齋藤竜太 2001.「都市農業における農産物直売の存立構造とその役割」. 東京都立大学卒業論文.

山本正三 ほか 2012. 『新編地理 A』二宮書店.

山本正三 ほか 2016. 『基本地理 A』二宮書店.

一般社団法人 長崎国際観光コンベンション協会 2018.「長崎さるくコースマップ（01 居留地）」. https://www.saruku.info/coursemap/ （2021 年 1 月確認）

.